



は意見を伝えるが、事業の実施は県に合わせる。後付装置は適合車種が限定されている。制度新設での普及は難しいため、補助制度を設ける考えはない。

**庄田博己(未来の会)**

**協働のまちづくり ネットワークづくりを**

**問** ボランティアが活動しやすい環境づくり、NPOネットワークづくりをする必要がある。市は多様なボランティアに対応できる窓口を役所内に設置する考えはあるか。

**答** 勤労福祉会館内には窓口がある。ボランティアは本来自然発生的なもの

であり、そのときは大きく育てたいと思っている。

**受益者負担と 市民サービスの拡大を**

**問** 児童クラブは両親が働いている児童を、無料で預かっている。親の介護等で働けない人、預かってもらえるなら働きたい人にとって不公平ではないか。今までサービスを受けていなかった児童も、広く受け入れていくべきでは。

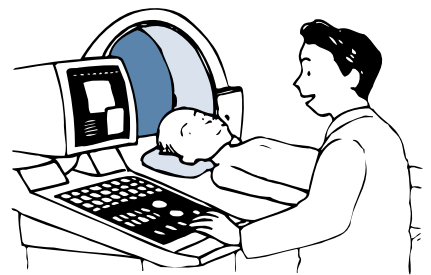
**答** 県内の児童クラブの半分以上は有料である。公平性を考慮し十七年度からの受益者負担を検討する。

- その他の質問
- 1 次世代育成支援計画
- 2 竹島イーストベイ整備計画

**大向正義(未来の会)**

**人間ドックの廃止と 基本健康診査の無料を**

**問** 愛知県内で市の事業として人間ドックを実施



しているのは蒲郡市だけである。しかも約二千人しか受診しておらず、一億円の赤字である。一億円の血税を使うなら基本健康診査を無料にした方が市民のためになると思うがどうか。

**答** 人間ドックは市民の健康を守るため必要な事業である。今後も利用者の増加や経費節減に努めたい。

**市役所の休憩時間を 改善する考えは**

**問** 総務省は勤務時間の始めや終わりに休憩時間を設定するのは適正でないとし、改善を求めている。また、休憩時間は民間になり「有給の休息」であるが、市民の理解は得られるのか。

**答** 指導の理由は出勤・帰宅時間のずれ防止と理解している。蒲郡市では窓口が混雑する時間帯を避け正午からと勤務時間の終わりにそれぞれ十五分間設定している。帰宅時間は休憩時間終了後である。休憩時間は長時間労働から生じる緊張感の解放などの効果があり、ご理解いただきたい。

**鎌田篤司(新政クラブ)**

**大雨による大量漂着物の 港湾等からの回収**

**問** 大量降雨により、主に河川から流出する流木及び生活ごみ等の大量漂着物の除去・回収処分について、当局の対応を伺う。

**答** 市が漂着物の回収・処分に使った費用は、平成十五年度は七百十三万円、平成十六年度は七月末で五百九十二万円を費やしている。ボランティアの協力もあるが、財政的な問題によって、すべてを処理する状況ではない。

港湾等の管理者は愛知県であるので、その都度、漂

流木の清掃に励む市民たち



着物の回収・処分をお願いしている。三河港務所との協議で、来年度の回収・処分の費用について、前向きに考えていただくよう検討をお願いしている。

今後については、東三河の沿岸市町の漁業、港湾、観光等の関係者と連携して、知事あてに「漂着物の回収・処分に要する費用の予算化を申し入れる要望書」の取りまとめを進めている。また、知事と県下の市長が課題を協議する「県市懇談会」が十一月に開催される予定である。この場でも蒲郡市から除去・処分を提案する準備をしている。